



平成灯台守

2025. 4 月号

発行/御前埼灯台を守る会

伊豆石はどこから来たのか

御前埼灯台の石材は伊豆石を用いたと伝えられているが、伊豆半島には至る所に石切り場があり、産地は何処か常々気になっていました。

灯台を守る会では1月11日、観光物産会館「なぶら館」で伊豆石講演会を開催しました。講師は伊豆石を研究する伊豆石文化探究会の剣持佳希会長。一般市民や守る会員ら約40人が聴講しました。

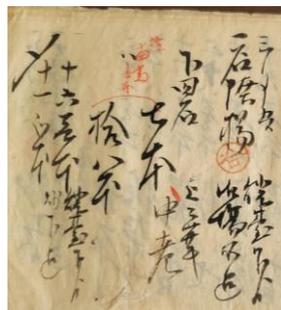


剣持会長は、「伊豆石とは伊豆半島で採石される石の総称で、古くは江戸城の石垣に用いられている。神子元島灯台の建設でブランドンは下田市内の官有地、エビス崎の石を切り出し、小舟で運んだ。2年後に着工する御前埼灯台も下田の石を使ったと思われる」と話しました。このほか、明治初期の横浜や東京の都市建設に伊豆石が使われていることを紹介しました。

松林家文書に「下田石」の文字

この講演会開催にあたり調査した上岬区の松林靖夫家が所蔵する灯台建設に関する文書（石材やレンガを運んだ人足帳）に「下田石」という文字を見付けました。

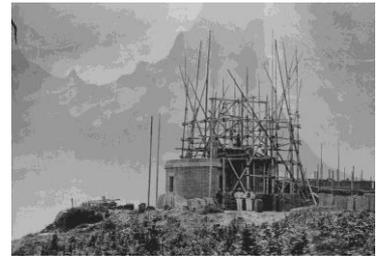
御前埼灯台の石材は下田から運ばれて来たことにほぼ間違いないと思われます。飛び上がる喜びです。



調査報告

角島灯台ではクレーン使用

御前埼灯台建設時の写真には灯台の周囲に木の丸太をつなぎ合わ



せた足場が組まれています。

上部の踊り場に使われている大きな石材はどのようにして運び揚



げたものか、これも謎の一つです。

山口県の角島灯台では、西洋型の船で運んで来た瀬戸内海産の花崗岩を灯台の沖で筏に載せ換え、海岸から灯台まで敷かれた栈橋の軌道をトロッコで運び、地上と塔上のクレーンで吊り上げています。

【写真は森田会員2月撮影】

今年は灯明堂設置390年



今年江戸時代の寛永12年（1635）に幕府が作った最初の灯台「見尾火灯明堂」が御前崎

に設置されてから390年になります。

江戸と大阪を結ぶ海の東海道の中間に当たる御前崎の海は、日本三大難所として恐れられる遠州灘が横たわり、加えて沿岸には無数の暗礁があり遭難する船が多くあったことから幕府は灯明堂を設置し、航海する船の目当てとしました。

それ以来、現在の洋式灯台ができるまでの約240年間、御前崎の村人たちが毎夜火の番をして海の安全を守ってきました。

灯台資料館（毎週日曜日開設）では見尾火灯明堂の歴史を展示しています。

ぜひご覧ください。 by masatoshi